o.（　　47　　）令和３年度　地域と共働した博物館創造活動支援事業成果報告書

<table>
<tr><td>事業名称</td><td colspan="4">社会的課題に地域と共働して取り組む博物館づくり事業</td></tr>
<tr><td>実行委員会</td><td colspan="4">和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会</td></tr>
<tr><td rowspan="4">中 核 館</td><td colspan="4">和歌山県立博物館</td></tr>
<tr><td>住所</td><td colspan="3">〒640-8137　和歌山県和歌山市吹上 1-4-14</td></tr>
<tr><td>TEL</td><td>073-436-8670</td><td>FAX</td><td>073-423-2467</td></tr>
<tr><td>ホームページ</td><td colspan="3">https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/</td></tr>
<tr><td>構成団体</td><td colspan="4">和歌山県立博物館・歴史資料保全ネット・わかやま・和歌山県立和歌山工業高等学校</td></tr>
<tr><td>事業開始時点の課題分析</td><td colspan="4">地域における文化遺産をいかに継承していくかという問題は、高齢化や人口減少による地域コミュニティの縮小が全国的に顕在化する中で、重要な社会的課題となっている。また高い確率で発生が予想されている東南海・南海地震に伴う地震・津波被害に際して、命とともにいかに歴史・文化を守るかという問題についても、近年相次ぐ大規模自然災害の経験をふまえ、大きな社会的課題として問題が共有されているところである。改正文化財保護法においては、こうした課題を踏まえ、過疎化・少子高齢化を背景として文化財の滅失や散逸等の防止が緊急の課題であると位置づけられる中、和歌山県立博物館では文化遺産を通じた防災意識の啓発や、文化財の盗難防止のための啓発など、博物館機能を活用しながら能動的な取り組みを続けているところである（令和２年度第８回プラチナ大賞優秀賞きらり活動賞受賞）。
また、あらゆる人々に開かれ、平等に利用されるべき博物館において、障害の有無により利用が制約されることがあってはならない。改正障害者基本法、障害者総合支援法において、社会参加の機会の確保、情報の取得又は利用のための手段についての選択の機会の拡大が図られることが明示されているが、しかしなお、障害者が博物館を利用しやすくするための合理的配慮が足りておらず、利用者が増えていないことも、社会的課題となっている。この点において、和歌山県立博物館では特に視覚障害者への触知による情報伝達及び鑑賞体験を中心として、博物館展示のユニバーサルデザイン化の取り組みを続けているところである（平成 26 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰内閣総理大臣表彰受賞）。
こうした活動は、現今の地域社会が抱えるさまざまな課題に、博物館施設が従来の枠組みを超えて関わり、博物館機能を活用しながら、専門家を含む幅広い市民や地域の未来を担う生徒・学生と共働する取り組みであるものの、なおその手法や成果は普及していない。和歌山での実践を積み重ねつつ、そのノウハウを共有することで事業モデルとしての役割を果たす新たな取り組みが必須の課題となっている。</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">災害に際して過去の被害記録を避難に活かし、また文化遺産の喪失を最小限に留め、さらには文化遺産を犯罪被害からも防ぐという、あらゆる地域で共通するこれらの社会的課題に対して、和歌山県立博物館がその機能を積極的に活用して、自治体や民間団体と連携しながら、地域に伝わる文化遺産の価値・意味の顕在化と共有化を図るとともに、高校・大学と連携しながら地域に伝わる文化遺産を 3D プリンター等の新技術を活用して維持し、地域と資料との結びつきをより強固なものとするサポートを行うことで、住民の地域の文化や歴史への関心を高めるための役割を担う。</td></tr>
</table>

	また視覚障害者をはじめ、博物館利用に困難のある人々の利用環境を向上するために、誰もがさわって情報を入手できるさわれるレプリカを制作し、また地域の歴史の魅力を普及するための特殊印刷によるさわってよむ図録を作製するとともに、それらの活動を展示等で積極的に普及を行うことで、あらゆる人々に開かれて誰もが情報を共有できる、理想的な博物館の構築を実践的に行う。 こうした活動を通じて、地域の重要な文化的核としての博物館が、展示や普及の役割にとどまらず、地域が抱える社会的課題についてコミットし、市民とともに解決をめざす、モデルとなる新時代の博物館像を構築し、普及することを事業の目的とする。
事業概要	本事業では３つの取り組みを行った。①「地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承事業」は、民間ボランティア組織である歴史資料保全ネット・わかやま、和歌山県内の博物館施設等で構成される和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議、東南海・南海地震に伴う津波被害が想定される市町村の教育委員会や防災担当部局、自治会・自主防災組織と連携しながら、地元の郷土史研究者や災害史研究者の協力を得て、先人たちが残した「災害の記憶」を風化させることなく、地域全体で共有し、継承していくことで、将来起こりうるであろう地震被害に対し、地域住民が自らの生命と財産を守っていく活動を支援した。また被災という事態を想定し、被災した文化遺産を保全する活動の前提となる被害想定地域の文化遺産の所在確認調査を行った。調査対象地域は田辺市(旧田辺市域･旧大塔村域･旧中辺路町域)・上富田町であり、その成果に基づいた小冊子を作成し、関係する地域住民に配布し、またあわせて現地学習会（ウェブ公開）を開催した。 ②「お身代わり仏像による文化財防犯対策事業」は、過疎・高齢化等で維持継承が困難となっている集落の文化遺産を最新技術で複製し信仰環境を維持しながら保存継承する防犯への取り組みで、和歌山県立和歌山工業高等学校と和歌山大学と協力して、県内に所在する仏像・神像についての精巧な文化財レプリカ（お身代わり仏像）を作製するとともに、そうした取り組みをさまざまな媒体を用いて広く普及させた。 ③「触知資料による情報共有化事業」は、主に視覚障害者が博物館資料や郷土文化の情報を得るために3Dプリンター製文化財レプリカと特殊な盛上印刷による触図書籍を作製する博物館展示のユニバーサルデザイン化の取り組みで、県立和歌山工業高校・和歌山大学・県立和歌山盲学校と協力して作製し、さわれるレプリカは博物館に設置し、さわって読む図録は盲学校・点字図書館ほかへ提供し活用を図るとともに、第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会の会期にロビー展「さわって学ぶわかやまの歴史」を開催して、その意義を広く普及した。
実施項目 ・ 実施体系	１ 地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業 ①調査内容について企画・検討する会議の開催 ②調査対象地域における資料調査・聞き取り調査等の実施 ③調査成果を掲載した小冊子の作成と現地学習会の開催、事業・調査成果のウェブ公開 ２文化遺産の複製を活用した防犯対策事業 ①お身代わり仏像作製 ３さわれる資料による博物館のユニバーサルデザイン化事業 ①文化財レプリカ作製 ②さわって読む図録作製

実施後の 成果・効果等	1では、田辺市・上富田町を調査対象として30回の調査を行い、その成果を加えた小冊子「先人たちが残してくれた『災害の記憶』を未来に伝えるⅦ」を作成し、田辺市・上富田町の協力を得て全戸配布し、小冊子の内容は県立博物館HP上で公開した。また、コロナ禍で、まん延防止等重点措置の適用期間であったため、現地学習会は中止し、報告内容を録画してウェブ公開した。博物館の活動が地域住民の防災意識形成に寄与するともに、2市町の文化財担当者との協働による調査は、改正文化財保護法で市町村に求められている文化財保存活用地域計画策定への足がかりともなった。 2では、和歌山工業高校及び和歌山大学教育学部との連携により、次世代の地域社会を担う生徒・学生とともに、紀の川市西山の西山観音堂の十一面観音立像、高野町大滝の大滝丹生神社の神像2軀、海南市下津町大崎の大崎観音堂の宝冠釈迦如来坐像について、お身代わり仏像の作製を進めた。西山観音堂像については高校生による計測、修正、出力と、博物館による下地作業は完了したが、コロナウイルス感染症対策による非常事態宣言にて大学生の課外活動停止処置となり、着色作業が完了しなかったため、所蔵者の同意を得て奉納は延期した。前年度より着色作業を継続させた大崎観音堂、大滝丹生神社については、前者が12月19日、後者が3月24日に奉納を行った。それぞれ、実物資料を博物館で保管しつつ、高校生・大学生が作製した「お身代わり仏像」にて信仰環境の変容を少なくすることができ、また地域住民による式典も開かれ「子どもたちにこの仏像が地元でどんな風に信仰されてきたものか伝えたい」などの感想を得ている。 3では、2の事業で製作した仏像・神像のレプリカをさわれるレプリカとして活用し、視覚に障害のある方をはじめ、あらゆる人が触れられる資料として準備した。着色は完了しなかったが、未着色のまま単色の資料として用いている。またさわって読む図録は県立和歌山盲学校との連携により『仏像は地域とともにーみんなで守る文化財ー』と題して作製し、視覚障害者の郷土学習、美術学習の教材として、県立和歌山盲学校、県内公立図書館、近畿盲学校、主要点字図書館ほかに提供した。盲学校の全盲教員から「仏像と地域とをめぐる問題について視覚障害者が知識を得るためのよい資料となる」との評価を得た。視覚障害者が情報にアクセスする手段として高い効果があり、博物館展示のユニバーサルデザイン化を促進させる効果があった。なお、第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会の期間中にロビー展「さわって学ぶわかやまの歴史」（10月30日～11月23日）を開催し、視覚障害者への観賞支援の取り組みと当支援事業の成果を広く紹介して、1248名の観覧者を得た。

【事業実績】

地域に伝わる文化遺産をいかに継承していくかという問題は、高齢化や人口減少によるコミュニティの縮小が全国的に顕在化し、また大規模災害の発生が高い確率で予想される中で、全国共通の社会的課題となっています。また、あらゆる人々に開かれ、平等に利用されるべき博物館において、障害の有無により利用が制約されることがあってはなりませんが、しかしなお障害者が博物館を利用しやすくするための合理的配慮が足りているとはいえないことも、大きな課題となっています。

現今の地域社会が抱えるさまざまな課題に、博物館施設が従来の枠組みを超えて関わり、博物館機能を活用しながら、専門家を含む幅広い市民や地域の未来を担う生徒・学生と共働することが求められています。こうした課題意識のもと、本事業では次の 3 つの取り組みを行いました。、

1、 和歌山県内沿岸部に所在する「災害の記憶」に関する文化遺産を地域の人々や研究者との協働によって掘り起こし価値を共有化する防災への取り組み

2、 過疎・高齢化等で維持継承の困難となっている集落の文化遺産を最新技術で複製し信仰環境を維持しながら保存継承する防犯対策への取り組み

3、 視覚障害者が地域の歴史や文化に関する情報に接するために「さわれるレプリカ」及び「さわって読む図録」を作製するユニバーサルデザイン化の取り組み

自然災害への備えとしての歴史教育、人口減少・高齢化社会における新たな文化財継承方法の実践、そして障害者の社会生活の支援という、現代社会が直面する社会的課題に対して博物館の機能を活かした効果的な取り組みであり、他の地域や機関に対するモデル事業としての役割を果たしました。

1　地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業

歴史資料保全ネット・わかやま、和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議、市町村の文化財担当部局などと連携し、田辺市・上富田町を調査対象として 30 回の調査を行い、その成果を加えた小冊子「先人たちが残してくれた『災害の記憶』を未来に伝えるⅦ」を作成し、田辺市・上富田町の協力を得て全戸配布しました。またコロナ禍のもと、まん延防止等重点措置の適用期間であったため、現地学習会は中止しとしたものの、報告内容を録画してウェブ公開しました。博物館の活動が地域住民の防災意識形成に寄与するともに、二つの市町の文化財担当者との協働による調査は、改正文化財保護法で市町村に求められている文化財保存活用地域計画策定への足がかりともなりました。

左上：深層崩壊地と慰霊碑調査（田辺市熊野）2021 年 8 月 8 日　　**作製した小冊子**

左下：現地学習会 youtube 配信用動画収録状況（上富田文化会館）

2　文化遺産の複製を活用した防犯対策事業

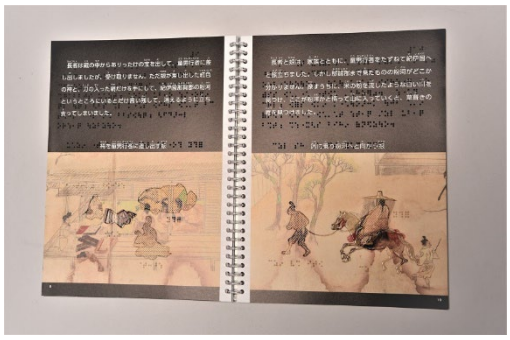
過疎・高齢化等で維持継承が困難となっている集落の文化遺産を、最新技術で複製を作製し、信仰環境を維持しながら保存継承するための防犯対策の取り組みを、和歌山県立和歌山工業高校と和歌山大学と連携して行いました。

対象としたのは紀の川市西山の西山観音堂の十一面観音立像で、博物館に収蔵した等身大の資料を、高校から機材一式を輸送して 3D スキャナーによる計測を行い、3DCAD システムを用いた修正作業ののち、3D プリンターによる出力を行いました。ただし、大学生による着色作業については、コロナウイルス感染症対策のため大学の課外活動停止処置が長く続いたため、作業日程を確保できず、完了させることができませんでした。引き続き着色を進めて奉納を行う予定です。

一方、前年度に、やはりコロナウイルス感染症拡大の影響で着色作業を完了させることができなかった海南市下津町の大崎観音堂の宝冠釈迦如来坐像と、高野町の大滝丹生神社の神像 2 体については、優先して着色作業を進行させ、大崎観音堂には 12 月 19 日、大滝丹生神社には 3 月 24 日にお身代わり仏像（神像）の奉納を行いました。それぞれ、実物資料を博物館で保管しつつ、高校生・大学生が作製した「お身代わり仏像」にて信仰環境の変容を少なくすることができ、また地域住民による盛大な式典も開かれ、関わった関係者からは「子どもたちにこの仏像が地元でどんな風に信仰されてきたものか伝えたい」などの感想を得ています。

3D スキャナーによる仏像計測のようす

大崎観音堂へのお身代わり仏像の奉納（2021 年 12 月 19 日）



3　さわれる資料による博物館のユニバーサルデザイン化事業

視覚障害者が地域の歴史や文化に関する情報に接するための「さわれるレプリカ」については、無着色の資料として完成させました。またさわって読む図録については県立和歌山盲学校と連携して『仏像は地域とともに－みんなで守る文化財－』を作製し、さわれるレプリカとともに企画展「仏像は地域とともに」（会期：令和 4 年 1 月 29 日～3 月 6 日）の会場に設置するとともに、県内全図書館、近畿盲学校、全国主要点字図書館、全国主要博物館、大学図書館等に寄贈し、事業の普及に努めました。また和歌山盲学校の全盲教員から「仏像と地域とをめぐる問題について視覚障害者が知識を得るためのよい資料となる」との評価を得ており、視覚障害者が情報にアクセスし、博物館展示のユニバーサルデザイン化を促進させる効果がありました。なお、第 21 回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会の期間中にロビー展「さわって学ぶわかやまの歴史」（10 月 30 日～11 月 23 日）を開催し、視覚障害者への観賞支援の取り組みと当支援事業の成果を広く紹介して、1248 名の観覧者を得ています。

左上：さわれるレプリカの展示状況　左下：さわって読む図録